

修士論文（要旨）
2009年1月

大学生の進路決定における心理的プロセスに関する記述的研究

指導 種市康太郎 准教授

国際学研究科
人間科学専攻 臨床心理学専修
207J5018
西村 圭子

目次

I	問題と目的	1
1	はじめに	1
2	問題	1
3	目的	6
II	研究の方法	6
1	予備調査	6
2	本調査	7
3	分析方法	9
III	結果	12
1	カテゴリーごとの説明	12
2	パターンの分析	26
3	個別事例	32
IV	考察	35
1	結果のまとめ	35
2	先行研究における成果との一致	37
3	先行研究における成果との不一致	39
4	本研究による知見	40
5	まとめ	41
	引用文献	43

I 問題と目的

日本の新規大学卒業者（新卒）の労働市場には独自の採用・就職の慣行・制度がある（日本労働政策研究・研修機構，2007）。大学生にとって新卒採用は重要な問題であり、就職活動中の心理的プレッシャーも大きいと推察され、適切な支援が準備、提供されることが望まれる。

日本における大学生の進路決定研究におけるアプローチ方法は3つに大別できる。第1は、進路決定を自己概念や自己効力感などの既存の概念と関連づけたものである（安達，2001など）。第2は、進路決定を一種の意思決定過程であると捉えて、その際の情報処理過程に焦点をあてた社会心理学的なアプローチである（下村，1998など）。第3は、大学生への進路指導という実務への応用を念頭に置いていると考えられるもので、進路決定に関する面接調査における発言内容の分析を主としている（奥田，2004など）。

現状では、上記のうち第1のアプローチが先行しているが、今後必要なアプローチを考えた場合に注目すべき点は、進路決定は一連のプロセスであり、時間経過による変化が伴うということである。先行研究に多くみられる横断的な研究では、プロセス全体と途中の変化を捉えることができない。そこで、本研究では第3のアプローチ方法を取り、大学生の進路決定を時間的な幅を持った一連のプロセスとして捉え、検討する。

II 研究の方法

本調査開始前に、大学生の進路決定の標準的な活動スケジュールおよび心理的プロセスの概要を知るため、2008年1月から3月にかけて、すでに内定を得ている文科系大学4年生5名（男性1名、女性4名）を対象とする予備調査を実施した。

本調査では、就職活動を終了させてからおよそ3ヶ月以内の文科系大学4、5年生18名（男性8名、女性10名）を対象者とし、就職活動での具体的な出来事、その時に考えたことや感じたこと、自己についての認識、親や友人など他者との関係、支援者の存在、気分転換の方法など、幅広い内容を聴取する半構造化インタビューを実施した。

得られたデータは木下（2007）による修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ、M-GTA（modified grounded theory approach）により分析した。分析作業では、調査対象者が自らの感情や認識について語っている箇所に注目した。概念とカテゴリーの生成に際しては、就職活動を3つの時期に分け、就職活動を始めてから実際に企業への応募を始める前までを（1）開始期、応募してから最終的な就職先を決める前までを（2）活動期、就職活動の終了までを（3）終結期とした。さらに内容に応じて〔1〕ポジティブ感情、〔2〕ポジティブ認識、〔3〕ネガティブ感情、〔4〕ネガティブ認識の4つに区分した。時期別の内容分析に加え、心理的プロセスに焦点を絞った縦断的な分析として、調査対象者各人の時系列での心理的プロセスを辿るパターン分析を行った。

III 結果

18名の心理的プロセスに関わる感情と認識を時期別に分析した結果、24個のカテゴリー（開始期4個、活動期16個、終結期4個）とそれらを構成する57個の概念（開始期6個、活動期39個、終結期12個）が見出された。また縦断的なプロセスの分析では、7種類のパターンが設定できた。これらの分析結果と個別事例の内容を総合すると、大学生の進路決定における心理的プロセスに関して以下の点が明らかとなった。

① 就職活動の心理的プロセスは、スタートからゴールまで直線的に進むのではなく、蛇

行的な動きをする。

- ② 開始期においては、就職活動を始めていること自体が安心感をもたらす。心理的プロセスの蛇行が顕著になるのは、実際の選考が始まってからである。
- ③ 就職観・就職活動観の発見は、蛇行的な心理的プロセスを直線的にするきっかけになる可能性が高い。
- ④ 希望の仕事があることは、大きなターニングポイントになる。しかし、必ずしもその後の就職活動の進展に寄与しない。選考の停滞、落選に伴う感情の変化が大きい場合もある。
- ⑤ 決まった就職先が希望の仕事であっても、感情面での安定が得られるとは限らない。
- ⑥ 基本的な社会的行動が取れない（スケジュール管理ができないなど）結果、選考が進まない、あるいは選考以前の段階で留まっている事例が複数認められる。
- ⑦ 選考が停滞しているときに、友人に相談して悩みを共有することで就職活動を続ける力としていた事例がある一方、相談できない孤独感を感じていた事例もあった。
- ⑧ 心理的プロセスが進行するきっかけは、外部からは合理的な説明が難しいものであることがある。

分析結果は、先行研究の成果に沿ったものであったが、一方で、事例の個別性の把握も重要であることが改めて示唆された。

本研究は、就職活動の途中で撤退した者は含まれていないこと、振り返り（回想法）の聞き取りであること、インタビューを行った時期は新卒大学生の「売り手市場」であったこと、などの方法論な限界がある。これらの点を考慮し、今後、インタビューによる質的データの収集と質問紙等を使った量的データの収集とを同時に行う研究や、進路決定のプロセス途中での調査を実施することにより、心理的プロセスをより精緻に分析できれば、実際の進路指導への応用も可能となるだろう。

主要参考文献

- 安達智子 (2001). 大学生の進路発達過程－社会・認知的進路理論からの検討－ 教育心理学研究, **49**, 326－336.
- Bandura, A. (1977). Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. *Psychological Review*, **84**, 191－215.
- Glaser, B.G., & Strauss, A.L. (1967). *The discovery of grounded theory: Strategies for qualitative research*. Chicago: Aldine. (グレイザー, B., G. & ストラウス, A., L. 後藤隆・大出春江・水野節夫 (訳) (1996). データ対話型理論の発見－調査からいかに理論をうみだすか 新曜社)
- 萩原俊彦 櫻井茂男 (2008). “やりたいこと探し”の動機における自己決定性の検討－進路不決断に及ぼす影響の観点から－ 教育心理学研究, **56**, 1－13.
- 廣瀬英子 (1998). 進路に関する自己効力研究の発展と課題 教育心理学研究, **46**, 343－355.
- 木下康仁 (2007). ライブ講義 M-GTA－実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて 弘文堂
- 菰田孝行 (2006). 大学生における職業価値観と職業選択行動との関連 青年心理学研究, **18**, 1－17.
- 日本労働政策研究・研修機構 (2007). 大学生と就職－職業への移行支援と人材育成の視点からの検討－ 労働政策研究報告書, **78**.
- 奥田雄一郎 (2004). 大学生の語りからみた職業選択時の時間的展望 大学院研究年報 (中央大学大学院), **33**, 167－180.
- 下村英雄 (1998). 大学生の職業選択における決定方略学習の効果 教育心理学研究, **46**, 193－202.
- 下村英雄 堀 洋元 (2004). 大学生の就職活動における情報探索行動：情報源の影響に関する検討 社会心理学研究, **20**, 93－105.
- 下山晴彦 (1986). 大学生の職業未決定の研究 教育心理学研究, **34**, 20－30.
- 高村和代 (1997). 課題探求時におけるアイデンティティの変容プロセスについて 教育心理学研究, **45**, 243－253.
- Taylor, K.M., & Betz, N.E. (1983). Applications of self-efficacy theory to the understanding and treatment of career indecision. *Journal of Vocational Behavior*, **22**, 63－81.
- 田澤 実 (2002). 職業選択時における大学生の自己効力 大学院研究年報 (中央大学大学院), **31**, 347－359.
- 富安浩樹 (1997a). 大学生における進路決定自己効力と進路決定行動との関連 発達心理学研究, **1**, 15－25.
- 富安浩樹 (1997b). 大学生における進路決定自己効力と時間的展望との関連 教育心理学研究, **45**, 329－336.
- 若松養亮 (2001). 大学生の進路未決定者が抱える困難さについて－教員養成学部の学生を対象に－ 教育心理学研究, **49**, 209－218.